編集後記

ようやく第二号ができあがった。年一回の刊行なのだから、同じことなら、もっと早く出したいというのが、創刊号のころからの念願であったが、いざとなるとそうもいかない。結局、こんどもまた年度末になってしまった。

機関誌である以上、できるだけ多くの会員諸氏からの投稿を期待したいのは、いうまでもない。前号の誌上でも勧誘しておいたのだが、これまた、必ずしも念願どおりにはならなかった。しかし、執筆者のうち、安永・土橋両教授を除いて、他はいずれも、本学出身の比較的若い世代の人たちである。よろこばしいことだと思う。今後とも、清新の気風みなぎる紙面が提供できるよう、会員の積極的な協力をお願いしたい。

昨年、郵便法が改正された機会に、この種の学会誌が、第四種の学術刊行物に認められるかどうかで、ちょっとした旋風がまきおこった。歴史の古い、号を重ねたものでも、問題になった例がままあると聞くなかで、創刊号を出したばかりの本誌なのだが、幸いにして、無条件で認められた。ただし、どういう点が審査の対象になったものか、詳しくはあずかり知らない。専門雑誌としての箔がついたなどと、うぬぼれるのは早すぎるであろうけれど、とりあえず、これもよろこばしいことの一つである。

（小森）

同志社国文学　第二号

昭和四十二年三月一日　印刷
昭和四十二年三月五日　発行

編集者　同志社大学国文学会
代表　土橋　寛
京都市上京区烏丸今出川
発行所　同志社大学国文学会
振替　京都二七三七
京都市南区吉祥院池ノ内町一〇
印刷所　明文社印刷株式会社